

学校法人 兵庫医科大学

広報



兵庫医科大学



兵庫医療大学

2018年1月号
Vol. 241

特集1 平成30年 年頭の言葉

新たな年を迎えて

特集2

~社会に貢献できる医療総合大学をめざして~

兵庫医療大学 開学10周年

兵庫医科大学 ささやま医療センター
開院20周年



西宮の河畔に、 「風立ちぬ いざ生きめやも」

理事長 新家 莊平

明けましておめでとうございます。平成30年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

御存知、「方丈記」の「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という無常観の極みともいえる一節を、この年賀の冒頭に引用するのは、凡そ、常識はずれの最たるものかも知れませんが、しかし、これは逆に、人の世の営みに絶えることなく変革を加えつつも、恒久的なものを創生し、後世に継続していこうとする人間の本性を称える一捻りしたエールのように思えたりもいたします。

したがって、この視点から昨年の本学を振り返ってみると、過去45年間にわたって記されてきた本学の物語の中に、明日に続く大小様々な句読点が打たれ続けたような気がします。

まず、西洋東洋両医学の融合を命題として開設された孔子学院は、中国北京中医薬大学との連携のもと5年間の草創期を終え、黎明期へと推移してきました。新しい院長には本学国際交流センター長の三輪洋人教授が就任、その日頃の手腕が大きく期待されているところです。

次に、21世紀の新しい医療というべきチーム医療を担う多職種の医療人の育成をめざす“兵庫医療大学”も開学10年目という一つの節目を迎えました。十年一昔という過去からの同大の発展の軌跡を振り返りつつ、次なる10年へのビジョンとして、「西日本を代表する医療総合大学としての教学基礎の確立」を宣言した馬場明道学長の言葉には未来への先見性が大きく膨らんでいました。

更に、“ささやま医療センター”は、開院後20年の成人式を迎えました。昨春、就任した片山覚5代目病院長は本学の兵庫県推薦の卒業生であり、地域医療の専門家であるばかりか、時流に沿った地域包括ケアシステムの充実と共に、総合診療専門医らの養成にも強い意欲を持った教育者でもあり、今後は全国が範とすべき医育機能を兼ね備えた遠隔地医療モデルが篠山の地に創生されていくことになるでしょう。

そして、昨年末、5年前に開学40周年記念行事を終えた西宮キャンパス内に、学内外の多数の方々や関係者のご協力・ご支援によって、新しい学舎の誕生という大きな句点が打たれました。

久し振りの大型プロジェクトの完成であり、その雄姿は成年の初頭を迎えた学生・教職員達全員に大きな高揚感をもたらすことになるでしょうが、これにより世界中の大学の教育評価に関して、最近公開された「THE世界大学ランキング日本版2017」の“教育リソース”の項目で、本学が日本の国公立全大学の中で第13位、私立の医学部に限ると全国で第1位に位置づけられたという俄かに信じられないような本学の誇らしいブランド力の向上に更に大きな拍車がかかることになるでしょう。

そして、この新しい皮袋の完成と機を一にするかのように、昨年、本学校法人の新規の長期ビジョンとして第3次中期事業計画の検討が始まりました。そこには、各施設や各部門から発せられた数々の意欲的な将来構想が提示されていますが、その中でも、特に「8年後の2025年に想定されている新病院建設計画の策定」「入試制度改革」「本学独自の医学研究の推進」「がん診療の充実」「本院の効率的運営」「地域包括ケア体制の整備」「健康医学クリニックの機能向上」等の施策が、変遷を続ける河の流れの底に不動の道標石として敷かれています。

今後、本学は坂の上の眩い雲に向かって、全教職員の一人ひとりが互いに連帯感を更に高めつつ、又、45年間にわたって培ってきた逞しい足並みでその礎石の一つ一つを踏みしめつつ、着実に前進していかなければなりません、これは大学人として、更には生きとし生けるものとしての責務であると思っております。

21世紀も約五分の一が過ぎた今、世界の空に、日本の空に、はたまた兵庫の空に、新しく生まれた様々な風が立っていますが、この成年、本学はこれらのあらゆる風を追い風として背に受け止めて、いざ、いざ、いざと明日に向かって力の限り生きぬいていきたいと思っています。



「平成30年新春にあたり」

兵庫医科大学 学長 野口 光一

皆様、明けましておめでとうございます。平成30年が皆様にとりまして、そして兵庫医科大学にとって素晴らしい1年となることを祈っております。

教育研究棟はついに今年4月から全面使用開始となります。これまで貧弱であった学生用アメニティが格段に向上し、日本で一番新しく設備の整った教育環境となり、学生達が新しい学び舎で生き生きと学ぶ様子が目に浮かびます。学生教育・医学研究に関わるすべての施設、設備、セキュリティなど予算内で最良になるよう検討してきましたので、皆様に快適で安全に活用していただけたと思います。

教育研究棟は完成しましたが、今後とも旧3、4、5、7号館の取り壊し、土壌整備、その後の駐車場建設等の工事が続きます。さらに数年後の着工をめざして、新病院棟建設計画の基本構想策定も開始しております。学生及び教職員の安全には最大限の配慮をしながら整備計画を進めて

て行きたいと考えております。

昨年嬉しかったことは、「THE世界大学ランキング日本版2017」の教育リソース分野で、本学が医学部を持つ私立大学の中で第1位となったことです。これは教育への投資、人的体制と共に教員の研究力が高い評価を受けた結果であります。この高い評価を継続出来るよう努力する必要があります。

1年前の挨拶でも触れましたが、学長として最も重要な業務と認識しているのは未来へ向けての改革です。今後とも本学が高い評価を得る大学として存続していくためには、財政面での裏付けと共に、教育・研究・診療のすべてのシステム、ソフト面での時代に対応した改革が必須です。長年に亘る慣習や風土を変えていく勇気や努力、そして何よりも兵庫医科大学を良くするという構成員全体の意思が重要です。是非皆様のご協力をお願い申し上げます。



医療大―「HUHS vision 20」の始動

兵庫医療大学 学長 馬場 明道

皆様、明けましておめでとうございます。

兵庫医療大学は、昨年9月に開学10周年の記念式典・講演会・祝賀会を成功裡に終えることが出来ました。医療大同窓会の共催のもと、本学関係者の帰属意識を高め、目標を共有するべく、これまでの10年の総括と、これからの10年に向けてのビジョン(HUHS vision 20)を宣言いたしました。300人を超える多くの方々に参加いただき、本学のプレゼンスを高めることに貢献できたと考えています。

10年を経過した本学の現在については、医療系の競合校がひしめく厳しい環境の中で、総体として、十分な成果を挙げています。かねてより懸案の薬学部が国家試験の合格率のアップについては、田中薬学部長のリーダーシップのもと、薬学教授会が一体となり、取り組みを強化しています。6年間通しての、それぞれの段階での、手厚い学生の学習支援プログラムを実施して

り、その効果が表れるのは今しばらくの時間が必要と判断しています。看護学部、リハ学部については、ほぼ100%の合格率を維持しており、特に問題はありません。

国家試験以外には、教学上の問題として、留年、ドロップアウトなどの進級困難者への学習支援があります。これについても、学部によって状況は異なりますが、昨年から、改組充実した教育支援室、さらには学部毎の取り組みにより、学生一人ひとりに対しての支援を実施しています。

冒頭に紹介しましたが、本年は、HUHS vision 20の本格的始動の年であります。本学の教育研究の新しい展開を通して、開学20年での目標に到達すべく、全学一体となり、注力してまいります。

本年も、兵庫医療大学をご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



特定機能病院職員としての矜持を新たに

兵庫医科大学病院 病院長 難波 光義

明けましておめでとうございます。

これまで本院は、国や県から数多くの要件について承認・指定を受け、その持てる機能を阪神南圏域にて発揮してきました。平成17年以来、三度目となる病院機能評価（新バージョン）や、ISO15189に基づく臨床検査室の認定などを踏まえて、今後は臨床研究中核病院の承認をめざして診療・研究のレベルアップをさらに進めていかねばなりません。

また、ここ数年、本学卒業生の国試合格率が安定して高いレベルを維持していることで、本学・本院のブランド力向上につながっており、地域からの信頼もますます厚いものとなってきています。とりわけ本院は、全国でも85施設、兵庫県下では2つしかない「特定機能病院」として、より高度で先進性に富んだ医療を患者さんに提供するとともに、より安全かつ高い倫理性に裏づけられた医療を提供しなければならないという社会的使命を担っています。それ

にもかかわらず、去年は単回使用医療機器の複数回使用事案について当局からの指導を受けることになりましたが、改めて特定機能病院としての使命感を胸に、再発防止に向けて全職員で日常業務や作業工程の見直しなどに取り組んでいるところです。

今日のわが国では、あらゆる業界・業種において「働き方改革」が叫ばれています。中でも医療の世界は、その重要性を肌で感じる職場かもしれません。そのゴールへ近づくためには、職員の一人ひとりがチームの一員として良好な連携を保ちながら、「自分は特定機能病院の職員である」という矜持を胸に抱き、日々の創意工夫の中から個々の生産性を高めていくことが最短の道ではないかと思います。この1年、まずは私が全職員のフロントランナーとして着実に歩を進めていこうと考えています。平成30年の兵庫医科大学病院にぜひご注目ください。



21年目の新年を迎えて

ささやま医療センター 病院長 片山 覚

明けましておめでとうございます。

さて、日本の医療体制は、1961年に「国民皆保険」体制となり、1990年代ごろから「医療と介護の連携」あるいは「機能分担と連携」が始まりました。本学は地域医療の研究、教育のために、1997（平成9）年10月に国立篠山病院の委譲を受け、リハビリセンター、老人保健施設を整備、兵庫医科大学篠山キャンパスとしました。その後、篠山市や兵庫県の支援のもと病院を整備、居宅サービスセンターを併設しています。今年は老朽化した学生寮、職員住宅と看護小規模多機能型居宅介護サービスの施設整備を進める計画です。このような本邦に例のない rural medical campus（地方都市医学部キャンパス）で取り組む21世紀の理想の地域医療は、ヘルスケアの3つの変革がコアとなります。第1は「ヘルスケアの生活モデル化」です。患者の病気を診断し治療する医学モデルに対して、生活においての障害をどう解決するかというアプローチを実践します。

第2は予防・治療・ケアを多職種で行う「ヘルスケアの包括化」です。最後は、それぞれの住民が病気や障害を持ってもその人らしく暮らしていける、また病気や障害になりにくい地域を作る「ヘルスケアの地域化」です。我々はこれを「篠山モデル」と呼ぶことにしました。「篠山モデル」では、キャンパスと地域が一体となって行う地域基盤型医学教育に取り組めます。学生や研修医は、地域で暮らし、住民や文化に触れ、保健医療介護のすべての関連職種とともに学んでいきます。その結果、地域で活躍することの意味合いや地域で必要な医療や困難さを理解した医療人が育ち、地域で働く医師確保にも貢献できると考えています。

篠山キャンパスがめざす「篠山モデル」について関係各位のご理解を頂き、大学と地域が一体となって丹波篠山が地域包括ケアと地域基盤型医学教育の先進地となるように職員一同努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

学校法人 兵庫医科大学

広報

vol.241/2018年1月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

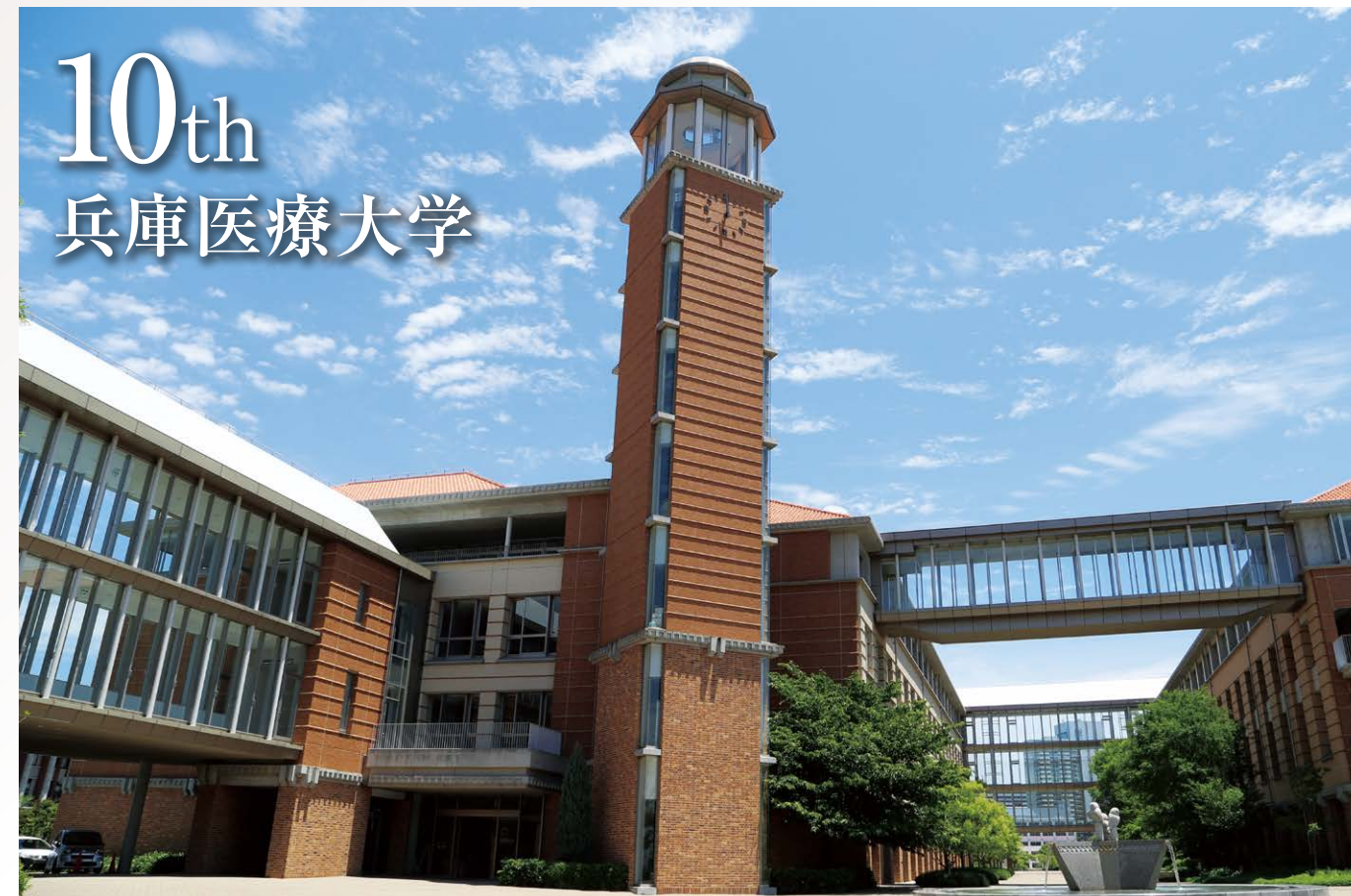
INDEX 目次

特集1	…1
～新たな年を迎えて～ 平成30年 年頭の言葉	
特集2	…5
～社会に貢献できる医療総合大学をめざして～ 兵庫医療大学 開学10周年・ 兵庫医科大学ささやま医療センター 開院20周年	
Campus News	…9
・研究医コース所属の4年次生が国際学会でシンポジストに抜擢 ・「THE世界大学ランキング」で私立大学（医学部）第1位に選ばれました！ ・研究スキルの向上のため「第5回臨床研究ワークショップ」を開催 ・「関西5医科大学 研究医養成コースコンソーシアム合宿」を開催 ・「個別化医療」を実践できるがん専門医療人の育成に向けて7大学で連携した養成プランを始動 ・兵庫医療大学「第11回保護者懇談会」を開催 ・兵庫医科大学後援会「秋季教員・保護者懇談会」を開催 ・11種の「看護外来」を開設 ・平成31年度入試より新制度を導入 ・「ホームカミングデー」「同窓会懇親会」を開催	・「平成29年 利益相反セミナー」を開催 ・ささやま医療センターで「休日乳がん検診」を実施 ・兵庫医科大学病院が「ベジフル サラダスムージー（リニューアル版）」を監修 ・教育研究機能を集約した新しい「教育研究棟」が完成 ・「羊膜間葉系幹細胞の治験製品提供と医師主導治験」を開始 ・「入試対策講座&薬学部志望者向け特別入試対策講座」を開催 ・「家族で楽しむクリスマス - ホテルのやわらかコース料理 - のみこみにくい人のために」を開催 ・兵庫医科大学病院とささやま医療センターで「クリスマスコンサート」を開催
卒業生の今	…15
夢を叶えて市民に寄り添う保健師に 溝尻 紗希さん（兵庫医療大学 平成25年3月卒業）	
気になる授業	…17
兵庫医科大学「医療入門」／兵庫医療大学「作業療法評価学実習」	
チームの力	…18
～肺がん手術後の復職期間について研究～ 兵庫医科大学病院 呼吸器外科病棟 研究チーム	
知ってる？兵庫医療大学	…18
「オクタホール」の由来とは？	
課外活動紹介	…19
第46回兵庫医科大学 大学祭「醫聖祭」／第10回兵庫医療大学 大学祭「海皇祭」	
The Professional ザ・プロフェッショナル	…21
遺伝子医療の最前線で ～遺伝カウンセラーの役割～ 兵庫医科大学病院 遺伝子医療部 遺伝カウンセラー 鹿嶋 見奈	
表彰および受賞紹介	…22
就任挨拶	…23
主な行事予定（2～4月）	…24
兵医・萌えの会 状況報告／新教育研究棟建設事業募金 状況報告	…25

兵庫医療大学 開学10周年・ 兵庫医科大学ささやま医療センター 開院20周年

学校法人兵庫医科大学の建学の精神のもとに有能な医療人育成を図るべく開学した兵庫医療大学は10周年、地域医療の中核を担う施設として開院した兵庫医科大学ささやま医療センター（以下、ささやま医療センター）は20周年と、それぞれ節目の年を迎えました。本特集では、これまでの歩みや記念式典の様子をご紹介します。

兵庫医療大学 開学10周年



沿革

平成19年4月



神戸ポートアイランドの地に兵庫医療大学を開学。

平成21年3月



多目的ホールやバスケットコート有する広々とした体育館が完成しました。

平成23年3月



看護学部・リハビリテーション学部の一期生190人が卒業を迎え、兵庫医療大学初めての卒業式を挙行了しました。

平成25年3月



6年制の薬学部一期生125人が卒業を迎え、医療人としてのスタートを切りました。

平成27年4月



教育・研究成果を広く社会に還元していくことを目的に、社会学連携推進機構を設置しました。

平成29年3月



ポートアイランド内にある5大学が連携・交流をより深めるため協定を締結しました。

～「チーム医療教育」一筋に歩んだ10年～

「チーム医療教育」を掲げて開学した兵庫医療大学は、今年度開学10周年を迎えました。具体的な大学設置構想を開始したのは今から約14年前。次代の医療を担う総合医科大学に変貌を遂げるべく、平成16年12月の理事会にて正式に決定し、平成17年4月に大学設置準備室を発足させて、本格的な開学準備が始まりました。チーム医療教育の基盤となる3学部4学科を同時に開設することは容易ではありませんでしたが、関係者の努力の末、平成18年11月下旬に文部科学省より設置認可。海に面した美しい景観が臨めるポートアイランドの西岸に、オレンジの屋根が特徴的な南欧風の学舎三棟を建設し、平成19年4月、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）を擁する「医療総合大学」として、無事に開学しました。

開学直後から、大学の教育目標として掲げているボーダレスな教育環境のもと、「チーム医療」の素地を培う学部横断教育を実施。兄弟校である兵庫医科大学 医学部との合同演習も行い、双方の大学を行き来しました。10年経った現在も、ブラッシュアップを重ねて一層充実した「チーム医療論演習」や「チーム医療概論」等のチーム医療カリキュラムを展開しています。

また、オーストラリアのアデレード大学と学術交流協定を締結し、相互に短期留学を行うなど、国際力を身につけた医療人の育成を強化しているほか、地域に根差した大学をめざして社会学連携推進機構を設置し、さまざまな地域連携プログラムに取り組むなど、兵庫医療大学ならではの特色が増えました。各学部系統の大学院も設置し、研究者の育成にも励んでいます。

平成23年3月に初めての学部卒業生を輩出し、平成30年1月現在における総数は1,943人に。大学院卒業生は76人となっています。

兵庫医療大学では、次の10年にさらなる高みをめざすため、開学20年に到達すべき教育目標とその達成のビジョンを「HUHS vision 20」として取りまとめました。教職員の確

固たる意志のもと、ヘルスサイエンスイノベーションに学部協同的、あるいは全学的に取り組む所存です。

これまでも、これからも、兵庫医療大学はチーム医療を担える質の高い医療人を育成し、地域に貢献する大学であり続けるべく邁進いたします。

「兵庫医療大学 開学10周年記念式典」を開催

平成29年9月30日にキャンパス内で「開学10周年記念式典」を開催し、各大学、行政、各種団体の関係者、教職員、卒業生など約300人が出席しました。式典に出席した学校法人兵庫医科大学の新家 荘平理事長は「質の高い専門性を持ち、豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成することが、私たちの大学の使命。それに向かって今後も精進していきたいです」と抱負を語りました。

また、兵庫医療大学の馬場 明道学長は「学生・教職員の努力は言うにおよばず、地域医療機関、他大学、行政、地域住民の皆さまの温かいご支援があつてこの日を迎えることができたことにお礼を申し上げます」と挨拶しました。

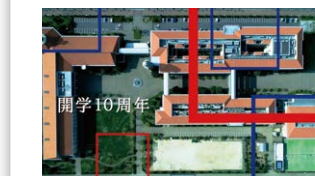


「HUHS vision 20」を語る馬場学長



出席者に配布された記念品

「10周年スペシャルムービー」公開中！



開学10周年を記念し、スペシャルムービーを制作しました。現在の大学・学生の様子や美しいキャンパスをドローンを使用して上空などから撮影。最先端の技術を使った映像に仕上がっていますので、ぜひご覧ください。



<https://www.youtube.com/watch?v=cuulSJ9byS0>

兵庫医科大学ささやま医療センター 開院20周年



～地域医療と真摯に向き合った20年～

篠山地域の医療機関として開院されたささやま医療センターは、今年度開院20周年を迎えました。まず産声を上げたのは、平成9年10月に国から「国立篠山病院」の経営移譲を受けて開院した「兵庫医科大学篠山病院」。その2年後にはリハビリテーションセンターを院内に開設、老人保健施設を併設し、地域医療の中核を担う施設として存在を示し始めました。平成19年に国有財産譲渡契約に規定された10年が経過した際、累積赤字が続いていたため病院存続可否の判断が迫られましたが、兵庫県、篠山市、兵庫医科大学の三者間において話し合いが繰り返され、結論として存続することになりました。

その後、篠山市と「兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書」を締結し、その支援によって平成21年4月には新病院棟を竣工。同年6月に「兵庫医科大学ささやま医療センター」と改称のうえ、敷地内に移転開院しました。平成27年には地域包括ケア病床と回復期リハビリテーション病棟を相次いで設置するなど、在宅療養に近づける包括ケア医療にも重点を置いています。このほか、同じ篠山キャンパス内にあるメリットを存分に活かし、老人保健施設および在宅医療を担う居宅サービスセンター（平成28年設置）と常に連携する体制を構築しています。

また、篠山市の保健福祉部と連携し、共同研究を進めながら、ピロリ菌検診や生活習慣病予防検診等に取り組んでいるほか、兵庫医科大学 医学部生に対して充実した臨床参加型実習や地域枠特別演習を提供したり、総合診療医の育成環境になるなど、教育・研究の場としても重宝されています。

国内の少子高齢化は進行するばかりですが、その15年先を行くと言われている超高齢化の篠山の地で、ささやま医療センターは、在宅医療や老人保健施設と連携しながら、今後も地域医療に貢献します。加えて、これまでの20年間で積み上げてきたものを礎とし、兵庫県全体の地域医療の充実、地域偏在の解消につながるように、篠山キャンパスの地域医療教育施設としての更なる充実と発展をめざしていきます。

「兵庫医科大学ささやま医療センター 開院20周年記念式典」を開催

平成29年10月14日、これまでの感謝の意を込めて「ささやま医療センター 開院20周年記念式典」を執り行い、病院関係者や市民の方々など約170人が出席しました。

式典の中で、学校法人兵庫医科大学の新家 莊平理事長は「市や県、地域の支援のおかげで『成人式』にたどりつきました。これまで同様、地域の事情に合わせた医療体制に力を入れ、更に飛躍していきたい」と決意を新たに。また、ささやま医療センターの片山 寛病院長は「子どもから高齢者まで、だれもが篠山で安心し、健康でいられる健康文化都市づくりや、地域医療で大切な家庭医、総合診療医の育成をささやま医療センターで進めていきます」と力強く発言しました。

また、当日は篠山市出身のピアニスト 吉田唯那さんに演奏いただき、市民の皆さんと一緒に節目を祝いました。



式典で祝辞を述べる新家理事長



ピアニスト吉田さんによる演奏

「兵庫医科大学ささやま医療センター」主な各種認定・指定状況等

- ・へき地医療拠点病院
- ・協力型臨床研修病院
- ・救急告示医療機関
- ・結核型予防指定医療機関
- ・特定疾患治療研究事業受託医療機関
- ・小児慢性特定疾患治療研究事業受託医療機関
- ・丹波圏域リハビリテーション支援センター
- ・日本医療機能評価機構認定(3rdG:Ver.1.0 一般病院1)

【ひらがな表記の理由は】

- 病院の正式名称に、なぜ篠山が「ひらがな表記」であるか疑問に思ったことはありませんか?その理由は、篠山市に馴染みがない方に「しのやま」と読み間違えられることがあったため、福田能啓第3代病院長が「ひらがなにしよう」と機転を利かせて命名されたとか。
- 確かに「ささやま」と書けば、読み間違われることはないですね。

沿革

平成9年10月



ささやま医療センターの前身となる兵庫医科大学篠山病院を開院。

平成11年6月



リハビリ・介護機能を有する兵庫医科大学篠山キャンパスを竣工しました。

平成20年7月



兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定書を篠山市と締結しました。

平成22年6月



兵庫医科大学ささやま医療センターに名称を変更し、敷地内に移転開院しました。

平成23年3月



東日本大震災で被災した地域に災害医療班を派遣しました。

平成27年8月



丹波圏域で初めて回復期リハビリテーション病棟を設置。リハビリテーションセンターとの連携で、より集中的なリハビリが可能になりました。

「THE世界大学ランキング 日本版2017」で 私立大学(医学部)第1位に選ばれました!

英・Times Higher Education (THE) 誌が例年発表している「世界大学ランキング」の日本版2017において、兵庫医科大学が＜教育リソース＞分野で医学部を持つ私立大学 第1位、全国13位と上位にランクインし、名だたる国公立大学とほぼ同様に、高い教育リソースを持っていることが評価されました。

私立大学(医学部) 第1位  & 全国13位

「THE世界大学ランキング 日本版」(公式HPより引用)：

＜教育リソース＞＜教育満足度＞＜教育成果＞＜国際性＞という4分野と11項目で構成され、大学の教育力を総合的に評価しているランキング。各項目は、学生数などの大学入力情報、競争的資金の獲得数などの引用情報、高校の教員・高等教育機関研究者・企業の人事担当者からの評判調査情報をもとに算出される。

＜教育リソース＞分野は、どれだけ充実した教育が行われている可能性があるかを下記5項目で評価される。

- ・学生一人あたりの資金(10%)
- ・学生一人あたりの教員数(8%)
- ・教員一人あたりの論文数・被引用回数(7%)
- ・大学合格者の学力(6%)
- ・教員一人あたりの競争的資金獲得数(7%)

順位	区分	大学名
1	国立	東京医科歯科大学
2	国立	東京大学
3	国立	京都大学
4	国立	東北大学
5	国立	浜松医科大学
6	国立	東京工業大学
7	私立	豊田工業大学
8	国立	大阪大学
9	国立	名古屋大学
10	公立	札幌医科大学
11	国立	九州大学
12	国立	滋賀医科大学
13	私立	兵庫医科大学
14	公立	奈良県立医科大学
15	国立	北海道大学

～現役医学部生の快挙～ 研究医コース所属の4年次生が国際学会でシンポジストに抜擢

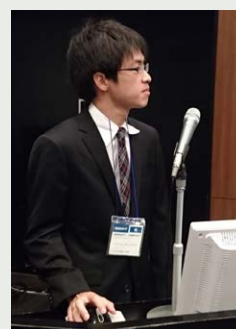
兵庫医科大学 医学部4年次生で研究医コース所属の大岡 裕隆さんが国際自律神経学会(ISAN2017)のシンポジウムの演者に抜擢され、平成29年8月30日～9月2日にウインクあいちにて開催された同学会で、自身の研究についてプレゼンテーションを行いました。

大岡さんは、元々ポスター発表を行う予定で事前申請していましたが、学会主催者に「研究レベルが高い」と評価され、シンポジウムで発表するに至りました。

研究テーマは、「Serotonin modulates synchronization between respiration and fetal movement in the pons」。延髄と脊髄にはリズムジェネレーターが存在し、延髄は「呼吸性活動」、脊髄は「体動」と関係しているのですが、この研究で、橋(脳の部位の一つ)と5-HT(セロトニン)が「呼吸」と「体動」の相互作用を生じさせるために必要であることが分かりました。



学会での発表の様子



学会発表中の大岡さん

今回の経験を活かして より高度な研究を

今回の学会発表を通し、改めて研究データを整理したことで新たな発見がありましたし、学会では、各大学の先生方からご意見をいただき、それまで自分にはなかった視点から考察するきっかけにもなりました。将来的に、この研究を臨床にも繋げたいと考えているので、今回の研究発表で得たことを実践し、より信頼性のある高精度な研究を行ってきたいと思います。

医学部 4年次 大岡 裕隆

■9/26(火)

兵庫医科大学 各講座の研究管理責任者を対象に、研究の活性化・適正化、学内の制度・運用に関する情報共有などのための会議を開催しました。



■10/2(月)

平成29年度 学校法人兵庫医科大学 医療人育成研修センター 認定看護師教育課程(手術看護分野)の入学式を執り行いました。



研究スキルの向上のため 「第5回臨床研究ワークショップ」を開催

平成29年9月14日と15日の二日間、学校法人兵庫医科大学 臨床研究支援センターと卒後臨床研修センターの共催で「第5回臨床研究ワークショップ」をユニピアささやまにて開催し、学内外から20人の研究熱心な医師および医療関係者が参加しました。

本ワークショップのメインであるグループワークでは、初日に各グループで仮想の研究テーマを決め、一から研究計画を構築して実際に統計ソフトを使用しながら夜遅くまで熱心に研究結果を導き出し、二日目には各グループの全員が研究結果の発表を行いました。全体を通して活発な質疑もあり、参加者は短いながらも研究スキルの向上に向けた有意義な時間を過ごしました。



熱心に講演を聴く参加者



グループごとに研究成果を発表



「関西5医科大学 研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催

平成29年9月9日～10日、関西5医科大学^(※)が大阪市のホテルコスモスクエア国際交流センターにて「研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催し、各大学の研究医コースに関わる教員、学生計57人が参加しました。

二日間の合宿では、学生が一人ずつ日頃の研究成果について発表を行ったほか、留学をテーマにしたグループワークを行ったり、教員による研究に関する講演に耳を傾けたりしました。また、ポスターセッションやフリートーク、懇親会で他大学の学生や教員と交流を深め、医学研究に対する意欲を一層高める良い機会となりました。

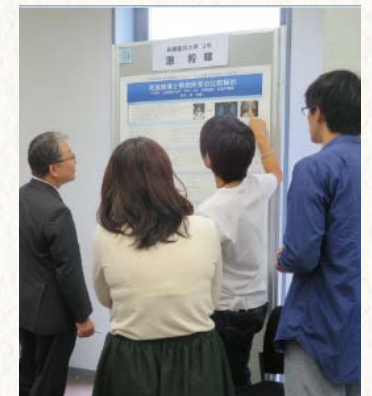
※兵庫医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学



教員と学生が懇親会で交流



参加教員、学生の集合写真



研究内容をポスターセッションで発表



“個別化医療”を実践できるがん専門医療人の育成に向けて 7大学で連携した養成プランを始動

平成29年9月19日、兵庫医科大学をはじめとした近畿圏の国公立大学7校^(※)の代表者がスイスホテル南海大阪に集結し、「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」に関する協定書の調印式を行いました。

この養成プランは、各大学の医学・看護学・薬学・理工学系の大学院研究科が相互連携することで、多様化する新ニーズに対応した“個別化医療”を実践できるがん専門医療人を養成するものです。調印式の前に開かれた会議では、これまで5年間取り組んできた「7大学連携先端がん教育基盤創造プラン」が文部科学省からS評価と認められたことや、その高い実績をベースとして新たに「ゲノムサイエンス」など3つのタスクフォースを立ち上げて人材育成に取り組むことなどを7大学で確認しました。

※兵庫医科大学、近畿大学、大阪市立大学、大阪府立大学、関西医科大学、神戸市看護大学、神戸大学



7大学の代表者による協定書調印式の模様



兵庫医療大学「第11回保護者懇談会」を開催

平成29年10月7日、兵庫医療大学にて全学部在学生の保護者を対象とした「第11回保護者懇談会」を開催しました。

今回、過去最多となる約500人の保護者のご出席があったため、大学全体説明会はオクタホールとM棟204講義室の2つの会場を中継して行い、10周年記念ムービー、大学現況、教育現況、学生生活、就職等について各担当者より報告。その後、学部別懇談会や希望者による個別面談を実施し、最後は懇親会にて、馬場学長をはじめ教員と保護者が和やかに交流しました。



兵庫医科大学後援会「秋季教員・保護者懇談会」を開催

平成29年11月4日、兵庫医科大学3-3講義室で兵庫医科大学後援会「秋季教員・保護者懇談会」が開催され、約150人の保護者にお集まりいただきました。懇談会では、野口学長より大学の重点課題とその取り組み・教育方針についての説明や、11月15日に竣工する教育研究棟の紹介のほか、成瀬医学教育センター長より「本学における教育の現状」と題した講演が行われました。

懇談会後は教員も交えた懇親会が開催され、保護者と教員の交流が深まり、盛会の内に終了しました。



～兵庫医療大学卒業生の絆を再確認～ 「ホームカミングデー」「同窓会懇親会」を開催

平成29年10月8日、大学祭の開催に併せて兵庫医療大学卒業生を対象に「ホームカミングデー」および「同窓会懇親会」が開催されました。

兵庫医療大学レストラン2階で開催されたホームカミングデーには、教職員・卒業生合わせて約50人が参加。その後、アリストンホテルに場所を移して、同窓会懇親会が行われました。当日は、学生時代の思い出など懐かしい話や、職場での悩みなど、同じ医療職として働く仲間だからこそ分かりあえる話に花を咲かせていました。



懐かしい大学の校舎で「ホームカミングデー」



ホテルに移動して「同窓会懇親会」



「平成29年 利益相反セミナー」を開催

平成29年10月17日、兵庫医科大学3-3講義室にて「平成29年 利益相反セミナー」を開催しました。

今年度は、我が国における利益相反マネジメントに関する第一人者である東京医科歯科大学 飯田 香織里教授をお招きし、「医学研究におけるCOI管理の必要性 ～各種指針改定や臨床研究法を踏まえて～」をテーマに、基礎から臨床研究法(平成30年4月施行予定)に伴う新たな基準まで、事例を交えて分かりやすくご講演いただきました。

当日は、近年の利益相反マネジメントへの関心の高まりもあり、本学教職員に加えて学外関係者・企業の方々にも多数ご出席いただきました。



学内外から多数の参加



飯田教授による講演



～ピンクリボン運動の一環として～ ささやま医療センターで「休日乳がん検診」を実施

平成29年11月3日、篠山市の協力のもと、兵庫医科大学ささやま医療センターにて一般市民を対象に「休日乳がん検診」を実施しました。これは、日本乳がんピンクリボン運動(認定NPO法人J.POSH)が推奨する「ジャパン・マンモグラフィーサンデー (JMSプログラム)」^(※)の取り組みへ参加しようと、例年開催している行事です。

地域からの要望等もあり、今年度は全国一斉日程から遅れての実施となりましたが、祝日ということも関係し、45の方に受診いただきました。受診後のアンケートでも、「平日は仕事で受診できないので助かる」「マンモグラフィーの担当が女性技師なので安心」といった感想が寄せられるなど、多くの方に満足いただいた検診となりました。

※子育て、介護、仕事など多忙な平日を過ごす女性のため、毎年10月第3週の日曜日に全国的に休日乳がん検診を実施する取り組み



受診受付の様子



女性技師が担当



～看護の専門知識を活かして～ 11種の「看護外来」を開設

患者さんやご家族が退院後なども自宅で安心して生活できるように、専門的な知識や技術を持った看護師が、療養を支援する外来を開設しています。平成28年12月より順次開設し、平成29年現在、その外来数は11種になりました。これからも、専門性を活かしながら患者さんを看護面でサポートしていきます。



<看護外来 一覧>

- ・ストーマ外来
- ・リンパ浮腫外来
- ・フットケア外来
- ・がん看護外来
- ・禁煙サポート外来
- ・移植後長期フォローアップ外来
- ・こども看護外来
- ・自己注射指導外来
- ・心臓血管外科看護外来
- ・糖尿病看護外来
- ・慢性病看護外来

詳細は、病院ホームページをご覧ください。
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/news/kango-gairai.html>

■10/17(火)

「平成29年度兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭」を挙行し、ご遺族の方々をはじめ、学生や教職員など約400人が参列しました。



■10/21(土)

兵庫医科大学病院 看護部および男女共同参画室が「第3回ママさんパパさん交流会」を共催し、26人の教職員が参加。初めて子育て講座も開かれました。



■11/1(水)

個人情報保護に対する意識を高めるため、兵庫医科大学にて「個人情報保護講演会」を開催。多数の教職員が参加しました。



■11/11(土)

平成30年度入職内定者を対象に、「看護職員内定者交流会」をホテルヒューイット甲子園にて開催し、内定者113人の参加がありました。

